

UMSARS 統一多系統萎縮症評価スケール

氏名:

様

評価日:

その1: 病歴評価

本人及び介助者への聞き取りにより過去2週間(特別な場合を除く)の平均的な状況を評価する。

1. 言語

0	正常
1	軽度障害 … 理解ができる
2	中等度障害 … 時折(半分以下)、言葉を聞き返す必要がある。
3	重度障害 … 頻繁に(半分以上)、言葉を聞き返す必要がある。
4	理解困難

2. 嚥下

0	正常
1	軽度障害 … 週に一回程度、息が詰まる感じがある。
2	中等度障害 … 週に一回以上、食事の際の誤嚥がある。
3	重度障害 … 頻繁に誤嚥がある。
4	経鼻もしくは胃瘻による栄養摂取。

3. 書字

0	正常
1	軽度障害 … 書いた字がすべて判読できる。
2	中等度障害 … 書いた字の半分程度が判読できる。
3	重度障害 … 書いた字の殆どが判読できない。
4	書字できない。

4. 食事動作

0	正常
1	やや拙速ではあるが、介助なしに可能。
2	拙速で、ほとんどの食べ物をナイフで切れず、介助を要する。
3	食べ物を切るのは介助を要するが、ゆっくり自分で摂食することはできる。
4	自分で食べることができない。

5. 更衣動作

0	正常
1	やや拙速ではあるが、介助なしに可能。
2	時折ボタンや袖通しの介助を要する。
3	多くの介助を要するが、自分でできる事もある。
4	全介助

6. 衛生

0	正常
1	やや拙速だが、介助なしに可能。
2	シャワーや入浴に介助を要するか、非常に時間がかかる。
3	洗体、歯磨き、髪をとかす、トイレの使用に介助を要する。
4	全介助

7. 歩行

0	正常
1	軽度障害 … 自立しており、補助具も必要ない(無関係の疾患を除く)。
2	中等度障害 … 時折、介助や補助具を要する。
3	重度障害 … 頻繁に介助を要する。
4	介助なしには歩行不可能。

8. 転倒 (前の月の頻度)

0	なし
1	滅多に転倒しない(月に1回未満)
2	時折転倒する(週に1回未満)
3	週に一回以上の転倒
4	少なくとも一日一回の転倒(歩行不可の場合も含む)

9. 起立性徴候（意識消失、眩暈、横になると軽快する視力低下や頸部痛）

0	全く見られない
1	頻繁ではなく、日常生活動作に制限はない。
2	頻繁に起こり、少なくとも週に一度悪化する。日常生活に制限をきたす。
3	多くの状況で悪化する。一分以上の立位は可能な事が多いが、日常生活はかなり制限される。
4	持続的に症状が出現している。意識消失や眩暈などが生じるため、1分未満しか立てない。

10. 排泄機能（他の疾患に起因しないもの）

0	正常
1	尿意切迫および（または）頻尿があるが、服薬は必要ない。
2	尿意切迫および（または）頻尿があり、服薬が必要。
3	切迫性尿失禁および（または）残尿により導尿を要する。
4	尿失禁のため留置カテーテルを要する。

11. 性的機能

0	正常
1	健常時に比べて軽度の障害。
2	健常時に比べて中等度の障害。
3	健常時に比べて重度の障害。
4	性的不能

12. 排便機能

0	病前と変化なし。
1	時折便秘があるが、緩下剤は必要ない。
2	頻繁に便秘があり、緩下剤が必要。
3	慢性的に便秘で、緩下剤や浣腸が必要。
4	自発的な排泄不可。

その1：病歴評価 合計点

点/48点

その2: 運動機能評価

どの検査も、四肢の中で最も症状の重い肢で評価する

1. 顔の表現

0	正常
1	やや乏しいが、正常に近い(ポーカークフェイス)。
2	表情に、わずかではあるが明らかな乏しさがある。
3	かなり無表情で、唇が開いている。
4	仮面様顔貌か、表情が殆どか全くない強張った状態で、口が0.25inch(6.35mm)以上開いている。

2. 発語

基本文を何度か読む。	
0	正常
1	わずかに遅く、不明瞭、および(または)発声障害があるが、繰り返さなくてもわかる。
2	かなり遅く、不明瞭、および(または)発声障害があり、時折聞き返さないとわからない。
3	非常に遅く、不明瞭、および(または)発声障害があり、頻繁に聞き返さないといけない。
4	理解不能

3. 眼球運動障害

検査者の指を水平移動させたものを追視させたり、外側の様々な位置にある指を観たり、30°程度離れた2本の指を見せてサッケード(衝動性運動)を確認する。以下の徴候を評価する: ①円滑な追視ができない ②45°以上の眼の変化で生じる眼振 ③45°未満の眼の変化で生じる眼振 ④過剰衝動性運動 (③がある場合は、②の障害も出ているものとする)	
0	なし
1	1つの異常所見あり
2	2つの異常所見あり
3	3つの異常所見あり
4	4つの異常所見あり

4. 安静時振戦

0	なし
1	ごく軽度、少ない頻度で出現。
2	軽度の振幅で持続するか、中等度の振幅で間歇的に出現。
3	中等度の振幅で、多くの時間で出現。
4	著明な振幅で、多くの時間で出現。

5. 動作時振戦

伸張した上肢での姿勢保持振戦(A)及び、指差しにおける動作時振戦(B)を評価する。 (A)、(B)いずれか重度な方で評価する。	
0	なし
1	(A)小さな振幅でごく軽度で出現。(B)指差しに支障なし。
2	(A)中等度の振幅で出現。(B)指差しにいくらかの支障あり。
3	(A)重度の振幅で出現。(B)指差しに重度の支障あり。
4	(A)かなり重度の振幅で出現。(B)指差し不可。

6. 筋緊張亢進(最も症状が強い肢で測定)

座位で安静にしてもらい、大関節の他動にて評価する：歯車現象は無視する。	
0	なし
1	ごく軽度、あるいは反射的にか他の動作によってのみ活動。
2	軽度～中等度
3	著明だが、最大可動域まで容易に伸張できる。
4	重度で、可動域の制限がある。

7～9の運動は、動作緩徐及び(または)小脳性運動失調によって障害される。
潜在する運動障害に関わらず、機能的な出来を評価すること。

7. 手の素早い交互運動

手の回内外の運動を、垂直位または水平位にて、できるだけ大きな動きで左右別々に実施する。	
0	正常
1	軽度障害
2	中等度障害
3	重度障害
4	ほぼ不可能

8. 指タッピング

少なくとも15～20秒、母指と示指でできるだけ速く大きくタッピングを行う。

- | | |
|---|-------|
| 0 | 正常 |
| 1 | 軽度障害 |
| 2 | 中等度障害 |
| 3 | 重度障害 |
| 4 | ほぼ不可能 |

9. 下肢の機敏性

座位にて、足を10cmほど完全に上げてから踵を床にタッピングする。

- | | |
|---|-------|
| 0 | 正常 |
| 1 | 軽度障害 |
| 2 | 中等度障害 |
| 3 | 重度障害 |
| 4 | ほぼ不可能 |

10. 踵膝脛試験

下肢を挙上して、伸ばしている対側の膝に乗せ、そのまま足関節まで脛の上を滑らせる。足関節まで到達したら空中を40cmほど浮かせて膝に戻す。正確な評価のため、同じ動作を少なくとも3回実施する。

- | | |
|---|----------------|
| 0 | 正常 |
| 1 | 軽度の測定障害及び運動失調 |
| 2 | 中等度の測定障害及び運動失調 |
| 3 | 重度の測定障害及び運動失調 |
| 4 | ほぼ不可能 |

11. 椅子からの立ち上がり

背もたれが真つすぐの、木製か金属製の椅子に胸の前で腕を組んで座り、そこから立ち上がる。

- | | |
|---|------------------------------|
| 0 | 正常 |
| 1 | ぎこちないか、一回では立ち上がれない。 |
| 2 | ひじ掛けに手をついて立ち上がる。 |
| 3 | 後ろへ倒れがちで、2回以上行方が介助なしで立ち上がれる。 |
| 4 | 介助なしでは立ち上がれない。 |

12. 姿勢

- | | |
|---|----------------------------------|
| 0 | 正常 |
| 1 | 直立ではなくわずかに前方へ傾斜しているが、高齢者では正常範囲。 |
| 2 | 中等度の前傾があり、明らかな異常。わずかに一側に傾くことがある。 |
| 3 | 脊柱後弯を伴う重度の前傾があり、どちらか一侧へ倒れそうになる。 |
| 4 | 極度の姿勢異常で、顕著な屈曲あり。 |

13. 身体の動揺

少し足を開き開眼して直立位をとってもらい、自発的な動揺や、検者が素早く強めに肩を引いた際の姿勢変化への応答を評価する。必ず本人に伝えた上でおこなうこと。

- | | |
|---|---|
| 0 | 正常 |
| 1 | わずかな身体の動揺及び(もしくは)、自己修正できる程度の後方へ動揺がある。 |
| 2 | 中等度の身体の動揺及び(もしくは)、姿勢反射が低下していてサポートがないと倒れる。 |
| 3 | 重度の身体の動揺、非常に不安定。立っていてもバランスを崩す事がある。 |
| 4 | 介助なしでは立位不可能 |

14. 歩行

- | | |
|---|----------------------------|
| 0 | 正常 |
| 1 | 軽度障害 |
| 2 | 中等度障害、歩行困難だが介助はわずかに要するか不要。 |
| 3 | 重度障害、介助を要する。 |
| 4 | 介助があっても歩行不可能 |

その2 : 運動機能評価 合計点

点/56点

その3： 自律神経機能評価

2分間背臥位で安静後と、2分間立位後の血圧と脈拍を測定

起立症状として、意識もうろう、めまい、目のかすみ、脱力、疲労、認知機能低下、嘔気、動悸、震え、頭痛、頸部痛、肩こりが生じうる

	収縮期血圧:	拡張期血圧:	脈拍:	
安静背臥位	mmHg	mmHg	回/分	測定不可
	▼	▼	▼	
2分立位後	mmHg	mmHg	回/分	測定不可
起立性症状	有	・	無	

その4： 総合的障害評価

- | | |
|---|---|
| 1 | 完全自立で、日常雑務を殆ど困難や障害なく行える。本質的に正常で、困難さを感じない。 |
| 2 | 完全な自立には至らず、いくつかの介助を要する。 |
| 3 | 依存度がやや高く、日常雑務の半分に介助を要し、一日の多くをそれに費やす。 |
| 4 | 非常に依存度が高く、わずかな日常雑務は自分で行えるのみで、大部分に介助を要する。 |
| 5 | 全般的に介助を要する。寝たきり状態。 |

その他、特筆事項

検査者: _____